

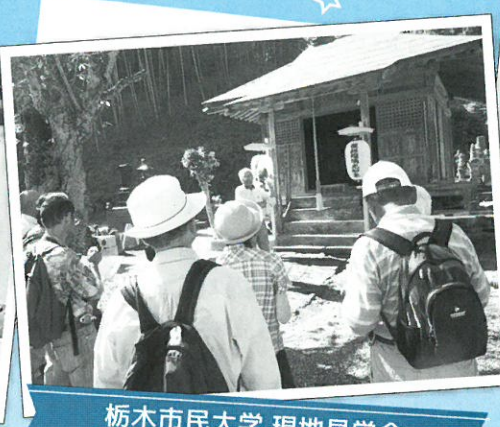
教育委員会だより

絆

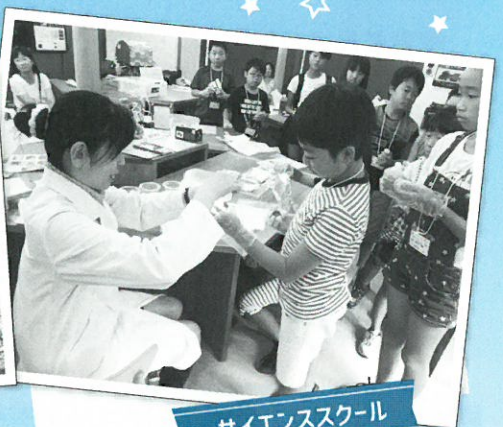
発行責任者：栃木市教育委員会
委員長 後藤 正人
住所：栃木市万町 9-25
TEL：0282-21-2461
FAX：0282-21-2689



子どもと大人のふれあい学習



栃木市民大学 現地見学会



サイエンススクール

委員長のあいさつ

♪♪ 生涯学習～最新学習歴～ ♪♪



桜前線の足音が次第に近づく三月は卒業の時期。これまでに、いろいろな卒業証書授与式を行い、また、幼・保・小・中・高・大など各校種の卒業式にも参列してきました。程よく緊張した雰囲気の中で挙行される卒業式には格別な感動があります。

昨年、秋季に行われた卒業式に出席する機会を得ました。宇都宮大学のキャンパス内にある「放送大学・栃木学習センター」での卒業証書・学位記授与式です。卒業生わずか31名の小さな卒業式でしたが、深い感銘と大きな感動が今でも脳裏に焼き付いています。子育てや家事や介護などを行いながらの主婦、高校を出てから会社勤めをしながら学んだ若者、障がいをおもちの方、既に四年制大学を卒業しながらもリカレント(学び直し)された方、そして、会社経営を引退された方など、18才から82才までの様々な年齢層や経歴をおもちの卒業生が4年間学んだ証として迎えた卒業式は、言葉尽くせないほど厳粛で素晴らしいものでした。放送大学栃木学習センター所長から手渡しされた卒業証書をそっと胸に押し当て、涙している方の仕草に目が止まり、不覚にも共涙してしまいました。様々な事情を抱えながらの4年間の過程には、さぞかし多くのご苦労があったことだろうと拝察します。御年82才の卒業生代表挨拶は、戦時下での学童疎開の体験から始まって、未来エネルギーにつながる壮大な“地球発電所構想”を熱く・力強く語る姿に圧倒されました。学ぶことに年齢や経歴などは、全く関係ないということ突き付けられたような気がしました。閉式後の茶話会にも招かれ、緊張から解き放され清々しい表情に変わった卒業生の皆様と歓談することができました。『学びたい!』と強く願う気持ちに裏打ちされた方々の学び抜く行動力と、『これからも学び続けたい!』という意欲にただただ敬服です。人間、生まれてから^{はて}涯るまでの一生が学習であり、大切なことは“最終学(校)歴”ではなく、「最新学習歴」を常に更新しようとする向学心がいかに尊いかを心底より痛感しました。



教育委員長 後藤 正人

栃木市では、本市在所の栃木県シルバー大学南校を始め、各種市民講座や市民スポーツ大会さらに栃木市民大学等々で、健やかで生き甲斐のある人生を支援し、活力ある地域社会を築くために、生涯にわたって学べる機会を数多く企画し、提供しています。学べることに心から感謝をし、共に学びを楽しむ「学習」がいかに人生を豊かにするかを31名の卒業生から気付かせていただきました。この記念すべき日の夜に、思い出のワインで家内の労をねぎらいました。

いよいよ、市内各学校の卒業式が間近な頃となります。今年も子どもたちの凛々しい姿から、たくさんの感動に接することのできる幸せに感謝の気持ちをもって、参列をさせていただきます。

栃木市教育ニュース



栃木市教育委員会では、‘ふるさとの風土で育む人づくり・まちづくり’をスローガンに掲げ、本市ならではの教育を推進しています。

今号の『栃木市教育ニュース』では、生涯学習関連の話題を市民の皆様にお知らせします。

「とちぎ未来アシストネット」とは…



教育委員会では、学校・家庭・地域の連携・協力を組織的に発展させ、より効果的に「学校支援（教育の充実）」や「地域の絆づくり」等を図る本市独自の教育システム「とちぎ未来アシストネット」を推進しています。このシステムは、学校・地域コーディネーターをつなぎ役として配置し、市内10の地域の公民館に地域アシストネット本部を設置することにより、学校支援ボランティア活動を核として、地域におけるボランティア活動も推進しています。また、これらの活動により“コミュニティの再構築・地域の絆づくり”の再構築が展開されています。



平成28年度 「とちぎ未来アシストネット」の実績

学校支援ボランティア活動 延べ回数

8,322 回

学校支援ボランティア活動 延べ人数

427,870 人



学校支援ボランティアの方々には白髪混じりの人も多い。彼らは私たちにとって偉大な世代の人々である。戦中戦後の貧しい時代に生まれ、懸命に汗水流して働いて、子を産み育てながら、今の日本の礎を築いてきた。そんな偉大な先輩方が年老いて尚、子どもたちのために力を貸してくださる。日本の成長を支えてきたパワーと後へ続く者への優しさに頭が下がる。「ありがとうございます」

福島 鉄典 教育委員より



「学びによる人づくり→まちづくり」栃木市民大学を開催しました！

栃木市では、市民の皆様にも多様な学習機会を提供するとともに、学びを通じた受講生同士の交流や仲間づくり、学習成果の活用による地域づくりの推進を目的とした“栃木市民大学”を開催しています。

今年度は173名の方が受講され、地域に関することやまちづくりに関することなどを熱心に学習していただきました。

栃木市民大学での学習を通して、学習された方が地域や社会など様々な場面でご活躍されますことを期待しております。



【栃木市民大学ボランティアスタッフ】

市民の学習ニーズを把握し、魅力ある講座内容とするため、栃木市民大学修了生による“栃木市民大学ボランティアスタッフ”を組織し、ご自身の知識や経験、人脈などを活かしながら、講座の企画を行っていただいております。

また、講座当日の受付や駐車場案内などの運営業務についても携わっていただき、市民との協働による栃木市民大学の実現に向けご協力いただいております。



最近わくわくしていませんか。恋愛時代のそれではありません。ここには胸ときめく、知的な出会いがあります。前から知りたかと思っていただけ。もう聞くに聞けないこと。始めて見開かれる広大な平野。時代を超えて展開される絵物語。手に取ってめくる本の第一ページ。押し寄せる、忘れていたあの情感。手に入れたくて知りたくて、講師の先生がチョークを置いてこちらに顔を向けた時、あっと声にならぬ声をあげるのです。

林 慶仁 教育委員より



教育委員の活動日誌

教育委員の活動は、毎月の定例教育委員会をはじめ多岐にわたっています。今号では、その中でも大きな主催イベントである「**栃木市教育祭**」の様子を紹介します。



★ 栃木市教育祭を開催しました! ★

昨年12月10日(土)～12日(月)に、大平文化会館と大平公民館を会場に「**栃木市教育祭**」を開催しました。

12日の式典では、後藤教育委員長による主催挨拶や鈴木市長による来賓挨拶、教育功労者や善行児童・生徒への表彰が行われました。記念アトラクションとして栃木女子高コーラス部や大平中お囃子連による演目が披露されて、会場も大いに盛り上がりました。

また、開催期間中には公民館内に展示コーナーが設けられ、児童・生徒の作品展示や市内の幼稚園・保育園・小学校・中学校・高校の様子が紹介されました。



主催者挨拶



来賓挨拶



記念アトラクション



栃木市教育祭は、学校教育の成果を発表する場として毎年秋に開催されています。式典では教育功労者等の表彰が行われていますが、永年にわたって学校教育を支えてくださっている方々のご活躍に『子どもの健全育成には地域の方の力が不可欠なのだ』と頭が下がる思いです。また、記念アトラクションや作品展で見られる子どもたちの真摯な姿にも感動し、本市の教育の確かな成果を実感しています。今後も市民の皆様にご協力をいただきながら、教育祭ならびに本市の教育を盛り上げていきたいと思ひます。

荒川 律 教育委員より



表彰式



展示コーナー

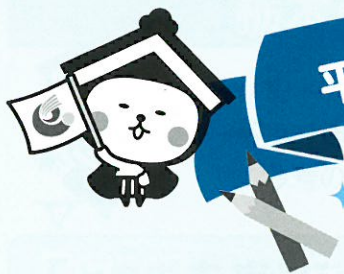


展示コーナーには、児童生徒の習字や絵などの展示があり、素晴らしい作品がたくさんありました。また、市内の幼稚園、保育園、小学校、中学校、高校が、各校ごとにパネルで紹介されていて、とてもわかりやすかったです。特に小規模特認校のパネルは、学校の特徴や様子を写真などで紹介していて見やすかったです。教育祭は毎年開催されていますので、機会がありましたらぜひ足を運んでいただきたいと思います。

若林 由美子 教育委員より

所狭しとたくさん展示された絵画、書道等の作品。本当に小学生?中学生なの?と思われる大人びた作品とは裏腹に、可愛らしくてつい微笑みたくなる小学生、中学生らしさにあふれる作品。そして、深く掘り下げた夏休みの研究作品。どれも素晴らしく、驚き、感動の連続でした。

西脇 はるみ 教育委員より



平成28年度 教育関係表彰の紹介



「文部科学大臣表彰」 おめでとうございます!

【学校給食】 栃木中央小学校

栃木市では、‘食に関する指導の充実’を各小中学校で積極的に進めています。栃木中央小学校では、給食時間はもとより、各教科や特別活動等、教育活動全体を通して食に関する指導を実践しています。

また、学校と地域の連携から、ボランティアによる食事マナーの指導も定期的に行っています。

今年度、これらの活動が評価され、『学校給食』文部科学大臣賞を県内で、唯一受けることができました。



【地域学校協働活動】 都賀地域アシストネット本部

昨年度の「皆川地域アシストネット本部」に続き、本年度は、「都賀地域アシストネット本部」が文部科学大臣表彰を受賞しました。

都賀地域では、「地域から学校へ」の読み聞かせボランティアなどの取組のほか、「学校から地域へ」の取組を推進するため、地域行事の企画の段階から中学生が積極的に参画するなど“子どもたちの地域貢献活動”が活発に行われています。この取組は、学校と地域との絆が深まるとともに地域の活性化につながっています。これらが評価され、「地域学校協働活動」推進に係る大臣表彰を、県内で、唯一受賞しました。



『地域とともにある学校』コミュニティ・スクール

教育長通信

次年度より、本市の小中学校44校に学校運営協議会が設置され、県内で初めて市内全ての公立小中学校にコミュニティ・スクールが導入されます。

コミュニティ・スクールは、‘地域に開かれた’から‘地域とともにある’へ、教育の‘新たなかたち’を創り出す取り組みであり、その推進には「学校運営」に対する‘意識の改革’が求められます。そして、地域の力を‘チーム学校’として取り組むこと、学校教育に「地域と共に」の‘新しいかたち’を築くこと、その成果を《豊かな実り》として子どもたちに還元すること…が基本的な課題となります。

昨年7月に教育県「長野」を訪れる機会がありました。長野県では「信州型コミュニティスクール」という独自色を出しながら、全県下において‘学校と地域の連携・協働’を図っております。上田市のある学校を訪問させて頂いた際には、学校の教育活動の中に地域のボランティアの方々の方が日常的に入り、活躍されている姿を拜見するとともに、PTA組織に地域住民も加わり活動していることも知り、深い感銘を受けました。

その学校の校長先生に本市の「とちぎ未来アシストネット」の資料をお渡ししたところ、「上田市が目指したいことは、このような取り組みです。」とのお褒めの言葉もいただきました。

平成24年度より市内全域で推進してきました‘学校・家庭・地域を繋ぐ「とちぎ未来アシストネット」の構築’も、おかげさまで現在は、多くの市民の方々に携わっていただき、大きな成果をあげております。コミュニティ・スクールという新しい取り組みに向けても、この「とちぎ未来アシストネット」の実績が強い基盤となっていくことと思います。

— 栃木市定例校長会（7月・9月）での話から（抜粋） —

教育長 赤堀 明弘

【編集後記】

“教育委員会だより 絆”は市民の皆様へ、教育への関心を一層高めてもらうため、‘開かれた教育委員会’としての活動を「分かりやすく」「親しみやすく」紹介していきます。

※ご意見・ご感想はこちら
までお寄せください。

栃木市教育委員会教育総務課 〒328-8686 栃木市万町9-25
電話：0282-21-2461 FAX：0282-21-2689 Email：kyoumu@city.tochigi.lg.jp